

古典と数学をつなぐ学力向上の取組み ―算額を題材にした教科横断授業―



本校では、学力向上の取組みの一環として、教科横断型の授業を行っています。

今回は古典と数学を結びつけ、江戸時代の和算文化である「算額」を題材とした学習を実施しました。

授業では、まず古典の資料を読み取り、当時の文化や背景に触れました。今後はこの学びを数学の授業へと“バトンタッチ”し、算額に示された問題に挑戦していきます。あわせて数学の授業では、「言葉」と「数」のつながりをさらに考えていくことになります。

この授業は、古典と数学をつなぐ学びの橋渡しとして、新しい視点をもつ教員が担当したもので、工夫を凝らした取組みとなりました。学校全体で支え合いながら進めることで、生徒の理解をより深めることができました。

今後も、生徒の主体的な学びを促しつつ、教員の成長も共に育んでいけるよう、学力向上の取組みを進めてまいります。